

建築用金属内外装材の「フロント」

建築用金属内外装材の製作・工事業、フロント(本社・東京都新宿区・社長・松川博行氏)は、工場から出荷前に錆(さび)を熟成させる独自の仕上げ技術「RUSTY R」を施した耐候性鋼のラインアップを拡充した。あらかじめ一連の工程を経た「錆鋼板」を「RUSTY R」ストックとして在庫。熟成期間が異なる複数の商品を取りそろえ、多彩なユーザーニーズに対応する。

「RUSTY R」は、耐候性鋼のミルスケールを除去後、フロントが独自開発した特殊な錆出剤「R・C

「錆、熟成仕上げ鋼板を工場に在庫 耐候性鋼の品ぞろえ拡充

hemical」を塗布して瞬間的に錆を出す。屋外で天日と風雨にさらし、2カ月以上の熟成期間を設けて初期に流出する錆を極力最小化する。

多彩な保管期間、錆の「表情」に広がり

さまざまな期間で「熟錆」る技術も確立。内外装させるため、錆の表情パネルや土留め、植栽に広がり生まれ、経エッジ、サインなど幅年で変化する風合いを、広い用途での展開が見込める。



レーザーカットやスタッド溶接などの後加工も可能

公開ストーリー制作

フロントでは、ホームページ上で「製作ストーリー」の公開を始めた。同社が携わった建築案件や製品、またその過程を詳しく紹介。目を引くタイトルとともに、息遣いに満ちた現場のやり取りや舞台裏の挿話などを交えている。

「RUSTY R」 同社では「RUSTY R」を在庫するUSTY R」を手ことで、素早い提供を3・2ト)を在庫する。てるのに必要な時間的保管中も錆は熟成を続な課題を解消する。美け、ワインやウイスキーの錆のまま、レーザーのエイジングに似た1カットやスタッド溶味わい深さを醸す。さ接といった後加工でき